



有松まちづくりの会役員会 (2月24日)

○令和2年度総会日程決まる

令和2年5月15日(金)13:30～有松・鳴海絞会館で開催と決まりました。

~~○まちなみ美術館 (主催：有松日本遺産推進協議会) 特別講演会・ワークショップ日程~~

3月07日(土) 13:00～15:00 講演「伝統産業の活性化」田畑喜八氏 絞会館

3月10日(火) 13:00～15:00 講演「伝統工芸の新たな進化」細尾真孝氏 絞会館

3月21日(土) 13:00～15:00 講演「藍染と絞」矢野藍秀氏 絞会館

3月8日(日)・22日(日) 13:00 嵐絞りと藍染ワークショップ 早川嘉英氏 蔵工房

日本遺産ワークショップ DAY2 (2月22日)

2回目の会場は祇園寺。カフェのような雰囲気です。「有松のこれまでとこれからを語り合おう!」と、活発な話し合いが行われました。参加者40名程は6グループに分かれ、25分毎にメンバーチェンジ。「有松にある空間の履歴」「有松の未来に残したいタカラ」「有松のまちとのかかわり方」を主テーマに話し合いが進められました。

最後に、進行役の愛知学院大学の村田尚生先生が「有松は閉鎖的との声も聞かれたが、それは地元の方の『誇り』であり『覚悟』の現れではないか。子どもの頃から育まれてきたもの。これからも今の時代に合わせて育んでいかれたらというご意見が多かった」と話し合いを締めくくられていました。



ワークショップ風景

第42回全国町並みゼミ川越大会 (1月31日～2月1日)

大会前日、「プレイベントin谷中のまち歩きとトークセッションに参加しました。「点から面へのまちづくり」と「歴史的建物の保全活用から文化再生」の話が参考になりました。

大会初日の1/31(金)は、地元ガイドの方とまち歩きをし川越のまちづくりの今を見て、その後第3分科会(景観まちづくりがもたらしたのもの～住民と来訪者の良好なあり方とは～)に参加しました。オーバーツーリズムで困っているとの話がありました。

2日目2/1(土)には、陣内秀信先生の基調講演「歴史都市を活かしたまちづくり～イタリアとの比較とこれからの日本・川越」を聞きました。

今回の全国町並みゼミに参加して得たことを有松のまちづくりに活かしていこうと思います。

(山田 修生)



大会会場であいさつする
竹田嘉兵衛会長(右)

小学校3年生 地域学習で有松来訪

毎年3学期には、近隣の小学生が地域学習の一環として有松を訪れます。有松あないびとの会では、小さい頃から住まいの近くには素晴らしい歴史ある町並みが、それをもたらした絞りという産業が営まれていることを知って欲しいと案内を行っています。

○ 桶狭間小学校（1月24日）

130名ほどの皆さんが、「古いものに関心を持つ」ことをテーマに有松を訪れました。当日は、引率の先生と共に桶狭間小学校から「分かれ道」を歩いて来訪。小グループで山車会館（布袋車展示中）や井桁屋さん、竹田庄九郎碑などを30分ほど見て回りました。皆さん本当に熱心で、持参の記録用紙にはピッシリ書き込みがされていました。この成果は、各自の着目点を新聞形式にまとめ、授業参観で保護者の方に披露されるとのことです。



桶狭間小の皆さん（山車会館）

○ 平子小学校（2月10日）

「学区周辺の歴史を知ろう」と、学年70数名が有松・鳴海・平子のグループに分かれ学習してきました。その一つ有松探訪グループ25名が岡家住宅の建物内見学を訪れました。その後、西町の町並みや天満社を見学しました。ガイドの説明をよく聞いているだけでなく、積極的に質問する子どもも多く見られました。この学習は、4年生での絞り体験に繋がるとのことです。



平子小の皆さん（岡家住宅）

「おこしもん作り」大盛況（2月17日）

昨年に引き続き、節句菓子のおこしもんを地域のみんなで作ろう！とNPOコンソーシアム有松の発案が企画されました。今年作成された有松オリジナルの木型「唐松絞り柄」「鍾馗様」「法被に3町の提灯柄」のお披露目を兼ねています。会場となった「カフェ庄九朗」には、抱っこひも持参のママ達や、高齢者を含む地域の方々、授業を終えて駆け付けた小学生さん等多くの参加者であふれかえりました。皆さん好みの型に思い思いの着色をして、大いに盛り上がり、会話の花咲く楽しい会になりました。



カフェ庄九朗にて

天皇誕生日を祝して イベント開催（2月23日）

2月22日にスタートした福よせ雛のイベント、初日は雨、23日も朝から寒い一日でしたが、最初の行事「白玉ぜんざいのふるまい」が行われました。300食が12時から中町年行司前で振る舞われ、来訪の方、地元の方も温かいぜんざいで一時の暖を取っていました。また、令和になって最初の天王誕生日を記念して御朱印頒布がなされ、配布場所の中町年行司には多くの人々が訪れていました。



ぜんざいのお振る舞い



御朱印の頒布

「ありまつ福よせ雛さんぼ道」始まる（2月22日～3月22日）

第5回となる今年の福よせ雛の展示は、更に多くの方が参加したものになりました。以前から福よせ雛の制作に協力していただいている桜花学園大学や名古屋短期大学の学生さんは、主に吊す板に様々な格好をさせた雛を数体載せる「台飾り」を担当。60台以上を制作されたとのことです。また、有松幼稚園・きよすみ保育園・あおば保育園のお子さん達は塗り絵で「さんぼ道」に参加。400枚以上が有松東海道沿いに飾られ、園児の保護者の方も足を止めていました。

主催者である有松福よせ雛実行委員会の六鹿晴美さんに、今年の取り組みについてお伺いしました。「今年は、福よせ雛の展示の中に園児の塗り絵を入れることにしました。観光客も含め、地域の皆さんにより楽しんでいただけるように工夫してみました。小さい子が親や祖父母の手を引っ張って自分が塗った絵を見てもらう、微笑ましい家族の談笑する様子が街道のあちこちで見られるといいです。」



取り付け風景



制作風景



展示を見る園児親子



桶狭間塾 終了（2月23日）

昨年4月14日にスタートした2019年度の「桶狭間塾」も2月23日で7回の講座が終了しました。講座に参加された佐藤貴さんに講座の様子についてお伺いしました。「2回の現地学習を含めて7回、毎回あっという間の2時間でした。故梶野渡さんの著『新説桶狭間合戦』をテキストに実施されました。現地学習は大変暑い日となり、スタッフは汗を拭き拭き、塾生はふうふう状態、それでも終了地点まで歩き通しました。」

来年度の講座からは、スタッフと塾生が対話しながら進めていくことができるような内容になるとのことです。



修了証授与（桶狭間公民館）

博物館で「浮世絵にみる有松絞店」展示始まる（2月26日）

昨年5月に日本遺産に認定された有松の魅力として、浮世絵さながらの町並みがあります。このような視点から「絞店の宣伝という目的で描かれた浮世絵を紹介する」展示会が、名古屋市博物館の常設展テーマ10コーナーで始まりました。3月22日まで。

かわら版では、今後博物館が所蔵している以下の4作品について順次紹介していく予定です。

「竹谷佐兵衛店先」「斜屋喜三郎店先」「山形屋庄五郎店先」「丸屋丈助店先」

地域活動 一里塚の清掃等

大正時代に消滅されたとされる有松一里塚が、国道302号線高架下に復活したのは平成24年(2012)のことです。以来、有松まちづくりの会やあないびとの会を中心に水やりや草刈りがされてきました。2月9日午前、寒風吹きすさむ中10名程の人達が一里塚周りの清掃を行っていました。1時間ほどでゴミ袋14個になりました。世話人的役割の鋤柄通雄さんにお話を伺いました。

「一里塚の管理者は有松一里塚愛護会が登録されているが、実際には有松まちづくりの会や有松あないびとの会の人達の手で維持管理がされている。ありがたいことです」と。



有松の紙芝居のはなし 有松あないびとの会 浅野康子

有松あないびとの会は発足してから17年になります。始まりは、愛知万博に来られたお客様に有松をご案内しようというものでした。あれから17年、有松は無電柱化、重伝建選定、日本遺産認定と大きく変わりました。世の中の歴史・観光ブームなどの流れもあり、お客様は年々増えております。あないびとの会の活動の幅も広がっております。

私たちの活動の中心は歴史町並み案内ですが、最近は紙芝居の会もよく開催しております。「ごんべい谷物語」「庄九郎と仲間たち」「愛知用水物語」「お灸と指輪」そして間もなく「ありまつ汗かき地蔵さん」が完成します。色々なイベント等の機会に、紙芝居会を開き、皆様に見ていただきたいと思っております。

催事・行事の予定

- | | | |
|---------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 2月22日～3月22日 | ありまつ福よせ雑さんぽ道 | 有松東海道一帯 |
| 3月01日(日) 09:00 | 有松東海道青空市 | 商工会周り 青空市運営委員会 |
| 3月07日～22日 | まちなみ美術館 | 絞会館ほか有松町並み建造物 NPO法人CAN |
| 3月08日(日) 14:00 | 福よせ二胡スイーツライブ | 松柏苑 |
| 3月14日～15日 10:00 | 旅まつり | 久屋大通公園 あないびとの会 桶狭間古戦場保存会 |
| 3月14日(土) 13:30 | 有松日本遺産 第3回ワークショップ | 有松小学校 同実行委員会 |
| 〃 14:00 | ピアノ尺八INFINITY春ライブ | しぼりの久田 |
| 3月15日(日) 09:30 | 有松天満社春季大祭 | 有松天満社 文嶺講 |
| 〃 11:00 | 四條流包丁式特別奉納 | 有松天満社 文嶺講 |
| 〃 11時12時13時14時 | 有松町並みツアー | 岡家住宅 有松あないびとの会 |
| 3月17日(火) 09:00 | 第1回有松関係史料調査 | 市政資料館 有松史料調査保存会 |
| 3月20日(金祝) 13:00 | 福よせ雑まつり(箏の演奏会・体験教室) | イオンタウン有松 |
| 〃 13:30 | 有松学区 健康講座 | コミセン 有松民児協 |
| 〃 15:00 | 上方落語(孔雀亭) | 寿限無茶屋 |
| 3月23日(月) 18:00 | 有松まちづくりの会役員会 | コミセン |

発行者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者:加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

有松のまち

検索

有松探訪

浮世絵にみる有松絞り店1 有松絞 丸屋丈助店先 有松あないびとの会 山本文雄

名古屋市博物館常設展テーマ10「浮世絵にみる有松絞店」(令和2年2月26日から3月22日)に展示された浮世絵を紹介しします。

橋本屋の分家、丸屋丈助の店舗です。下郷家の日記によると、天明の大火(1784年)の時、丸屋は焼けずに残ったとありますから、その頃から既に有力な絞商であったようです。描いたのが小田切春江で、和装の武家、町人のほか、洋装の兵隊が鉄砲を担いでいるところから、描かれたのは幕末期と思われます。軒下の看板には「絞悉皆所 駄売小売」とあり、格子のない開放された店頭の小売りのほか、暖簾では、江戸や京、大阪と取引していることをアピールしています。看板にある「絞悉皆所」は、絞りのことは何でも扱います、「駄売」とは荷駄をそのまま卸売りすることです。

江戸など遠方で卸売りをするには、この錦絵は大いに役立ったことでしょう。左上部の詞書きでは、絞りは古くは「くくり染め」といっていた、孝謙天皇の纈纈の敷物のこと、業平の歌、東行話説という旅行記での有松の町の記事、丸屋の手広い商売のこと、など書いています。茅葺き屋根で焼け残った店は、その後、この錦絵のように、火災に強い瓦葺き白漆喰に建て替えられたのでしょう。

外観はほぼこのまま、現存しています。昭和10年頃、岡家が購入し、岡兼商店として使われてきました。名古屋市指定文化財の岡家住宅は、現在、使われていないうえ、改造が少ないので、名古屋市が借り受け、土日だけ、日中、内部を公開しています。

最盛期の絞商の豪壮な建築を実見してください。

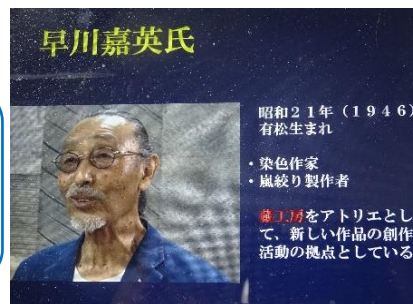


現在の岡家住宅



絞り探訪1 嵐絞り 蔵工房 説明:早川嘉英氏

昨年末(12/15)コンソーシアム有松主催の「有松知新」町並み見学会で早川嘉英氏の蔵工房を訪問する機会がありました。嵐絞りの現場を間近に見ることができました。その時に説明していただいた内容を紹介します。(説明要約:伊藤総俊)



有松の絞りは分業で成り立っている。この工房のように、染めることと絞ることが一体になっているところはない。嵐絞りという技法は長い棒を使う。昔は4mの棒を使っていたが、今は一人でやれる範囲で2mで絞っている。染色工場に運ぶことはできないので、この場で染めている。昔から嵐絞りは染色と絞りは一体になっていた。

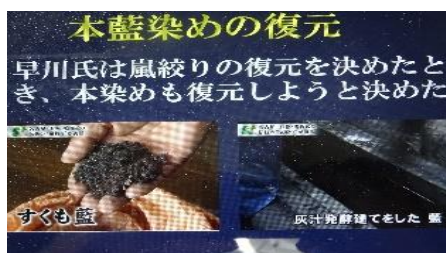
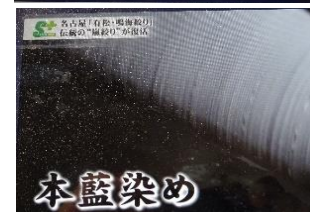
2mの棒を丸ごと染められるように、長さ2m深さ1mの水槽が必要である。常に循環していないとカスが付く。発酵させるのにも一定の量が必要である。普通の藍がめは350Lぐらい。水槽はその倍ほどある。

昭和50年代からはやられていない。何とかしなくてはと、残された人生で嵐絞りを復元できたなら面白そうとやり始めた。10年近く前に復元することができた。

今、時代は動いている。自然というものに対して、ものすごく違ってきている。海外に行くと、藍染めは引っ張りだこ。昔は染めが取れることが問題だったが、今は取れることが自然だという風に傾いてきている。世界中で藍染めが行われ、ここで染めていても年々需要が湧いてきている。それに伴いすくも不足にもなっている。

「伝統的」と言われたら既におしまい。時代と共に新しいものをどう作っていくのかが大事だと思う。

作業工程



蔵工房



蔵工房での見学風景 (右端:早川嘉英氏)